

F Y Sとキャリア形成に関する科目

神奈川大学は一人ひとりの個性を大切にした教育を実践し、実学志向という伝統のもと、さまざまな改革を行ってきました。そして、激変する社会や時代の変化に対応するため、大学での学修の出発点で新入生に適切な助言を与え、学問に誘い学びの態勢を整える機会として「F Y S」を、大学と社会をつなぐ教育として、自己価値を向上させていくことを目的に「キャリア形成科目」を2006年度から導入しました。この共通教養科目として先駆的かつ特徴的な「F Y S」と人間形成の分野にある「キャリア形成に関する科目」について、以下に紹介します。

1 F Y S (First Year Seminar) について

F Y Sは全学共通の初年次教育科目(必修)です。F Y Sとは、ファースト・イヤー・セミナー(First Year Seminar)の略で、新入学生(1年次生)は少人数のクラスに分かれ、“大学への入門”をセミナー(演習)形式で学びます。本学では、このF Y Sを通して新入学生が大学での学修により早く適応できるようにサポートします。

新入学生のみなさんは、この科目の履修を通して「読み、書き、調べ、問題を発見し、自分の考えを発表し討論でき、自分の責任のもとで行動できる」大学生としての資質を身につけ、積極的に学修に取り組む姿勢を修得してください。

具体的には、以下のような能力を身につけた学生の育成をめざします。

〔大学で学ぶための視点〕

- ① 大学で学ぶことの意味を理解し、自分を客観視することができる。
- ② 事象や既存の理論に対して「問題」を発見し、また疑問を提示することができる。
- ③ 自らの能力を自己評価でき、新たな達成目標を設定することができる。

〔大学で学ぶための方法〕

- ① 大学の組織と沿革を知り、また学修支援システムを自立的・継続的・多面的に利用できる。
- ② 教育課程を理解し、4年間の学修計画をたてることができる。
- ③ 図書館の利用により、独自に文献・資料等を検索または収集できる。
- ④ 既存の文書を指示された要件に従って要約・再構成でき、また、完成度の高いレポートや小論文を所定の期限までに完成できる。
- ⑤ グループ学習に際しては、協調性をもって主体的に参加することができ、また意見を述べることができる。
- ⑥ プレゼンテーションに際しては、自ら資料を作成し、論点を整理し、所要時間内に口頭発表ができる。

授業回数は、前期(半期)15回とし、おおむね以下のような内容と順序で行われます。これにより、大学生に求められる一般常識や態度と、大学で学ぶための基礎的技法をバランスよく学びます。

第I編 大学生に求められる一般常識や態度を身につける

- 第1章 大学で学ぶことの意味を理解する① ー自ら積極的、主体的に取り組むー
- 第2章 大学で学ぶことの意味を理解する② ー疑問を抱き、「問題の所在」を発見するー
- 第3章 大学で学ぶことの意味を理解する③ ー神大の歴史・沿革を学び、大学生としてのモラルを理解するー

第II編 大学で学ぶための基礎的技法を身につける

- 第4章 授業への取り組み① ー自分にとって役立つノートー
- 第5章 授業への取り組み② ー文献資料(図書、新聞、雑誌など)を読むー
- 第6章 授業への取り組み③ ー情報探索と問題発見ー図書館利用ガイダンス
- 第7章 授業への取り組み④ ー情報探索と問題発見ー情報活用能力を身につける
- 第8章 授業への取り組み⑤ ー問題発見から問題の解決に向けて仮説を設定し、検証するー
- 第9章 授業への取り組み⑥ ーレポートや小論文の作成ー
- 第10章 授業への取り組み⑦ ーレポートや小論文の検証ー

第III編 大学で学ぶための視点と方法を身につける

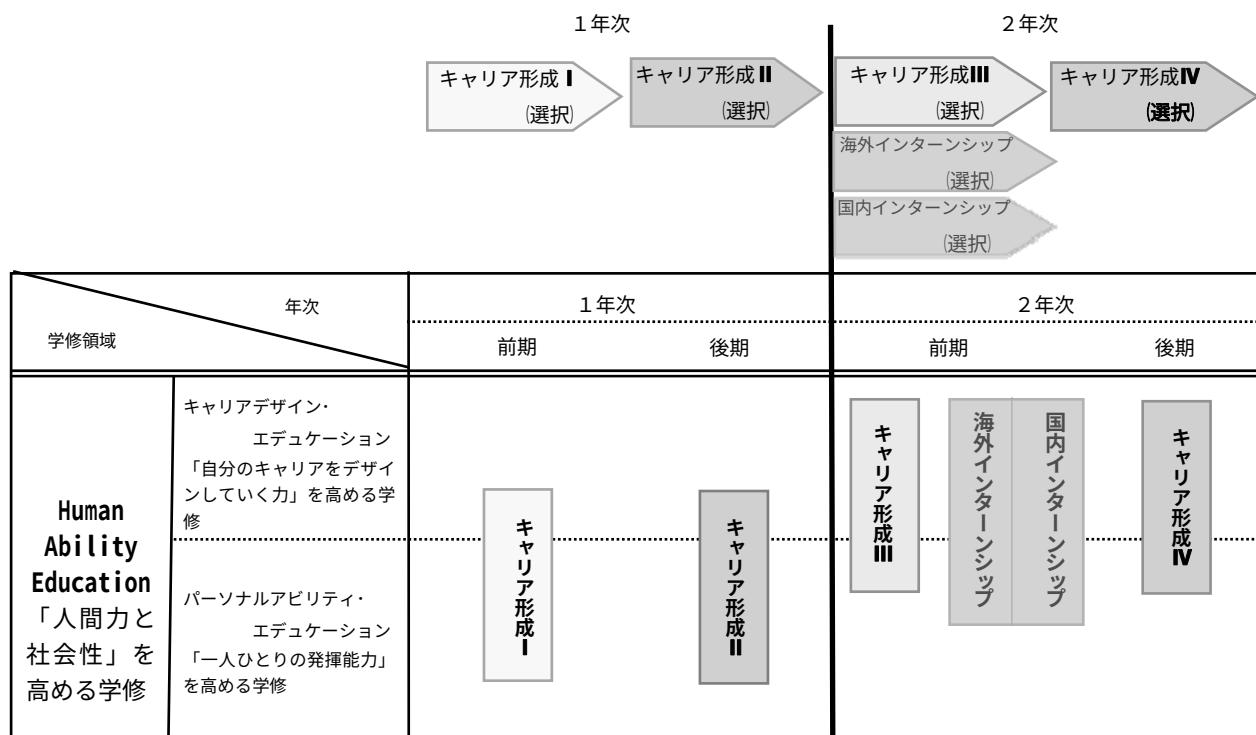
- 第11章 プレゼンテーションを準備する① ー意義と目的ー
- 第12章 プレゼンテーションを準備する② ーテーマ設定とレジュメ作成ー
- 第13章 プレゼンテーションを実施する① ー自分の考えを人前で話すー
- 第14章 プレゼンテーションを実施する② ー相互に評価・批評をするー
- 第15章 まとめ ーF Y Sで学んだことと、これから大学で学んでいくべきことを話し合うー

各回の具体的な授業内容は、『F Y S 資料&ワークシート集—大学で学ぶための視点と方法を身につける—』に記載してあります。

成績評価は、授業に参加する姿勢30%、小テストまたはレポート等の内容30%、プレゼンテーション等の内容40%として行います。

2 キャリア形成に関する科目について（共通基盤科目「人間形成の分野」）

キャリア形成に関する科目は、1年次から2年次までを対象として開講されている科目です。下の図のように、キャリア形成に必要なテーマを、年次毎にステップアップする形で配しています。



雇用環境は少しずつ改善の兆しがみられるとはいえ、企業は従来の厳選採用の姿勢を崩していません。採用基準を厳しくし「少数精鋭の視点で、高い人材要件を求める」傾向は変わっていないのです。学生側としては、より豊かな人生を送る上で、そしてその第一歩を踏み出す就職活動のうえで、一層の“自己形成・キャリア形成”が大切になってきます。そのためにはまず、基盤となる“人間力”を十分に醸成し高めていく努力が必要になるでしょう。

社会では、求める社会人像として「生き方・仕事に対する目的意識が明確で自己成長に意欲的であること」が重要視されています。やりたいことに向かって行動し努力できるか、協調し切磋琢磨することができるか、体験から学ぶ力はあるか・・・等々のことが重要視されるわけですが、これはまさに「自分、将来、他者、仕事、成長といったことに真摯に向き合うことのできる力」を求めているのです。本来的なキャリア形成とは、よい職を得てキャリアを作るために必要な要素という狭義のことではなく、この「自分、将来、他者、仕事、成長といったことに主体的に向き合うことのできる力を作る」という、生きる力の根幹となる考え方にほかならないのです。そのような観点で大学生活を考えた時、4年間のキャンパス生活で「自分の進路を見出すこと」と「社会に価値を寄与する力を高めること」が、大きな目標になることは間違いありません。キャリア形成に関する科目は、このような各人それぞれの進路の先にある社会生活で必要となる考え方や能力を習得するために設けられている科目で、本学の「成長支援第一主義」教育の一翼を担うものです。

その目的を、より具体的に示すと次のようなものになります。

1. 自分に期待し、自分の将来を展望できる力を養う
2. 大学生活を、自分の力で、価値あるもの・充足したものにできる力を養う
3. 大学生として、社会の一員として必要な「5つの力＝自己発見力、自己実現力、問題解決力、対人関係力、自己表現力」を養う
4. リアルティのある進路・職業観を形成する

このような目的を達成するために、キャリア形成に関する科目は、1年次から2年次後期まで“各学年次にやるべきこと”を、ステップアップしながら履修していけるように、「キャリア形成Ⅰ」、「キャリア形成Ⅱ」、「キャリア形成Ⅲ」、「キャリア形成Ⅳ」、「国内インターンシップ」、「海外インターンシップ」という科目で構成しています。

なお、履修にあたっては、「キャリア形成Ⅰ」から順に履修することが望ましいのですが、どのキャリア科目からも履修は可能となっています（ただし、下位年次の学生が上位年次の科目を履修することはできません）。

（１）キャリア形成Ⅰ

1年次前期に開講する「キャリア形成Ⅰ」は、以降に開講する「キャリア形成Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」の導入部として、大学生から社会人へ自己成長するための最も必要な基礎過程となっています。

「キャリア形成Ⅰ」の学修目的は、“自己発見力とポジティブ思考の形成”です。

ここで言う基礎過程とは、高校生から大学生への意識転換ということにとどまらず「これからの自分を作るために、本来の自分の良さや自分らしさを発見し直す」ことを意味しています。自分がどんな人間なのか分からない、やりたいことが分からない、自分との向き合い方が分からない……。あるいは、自分の良さや好きなところ、武器にしたい長所などをさらに伸ばすにはどうしたらいいのか。いずれの視点であっても、この1年次の時に「気づく（見つける）」ことがとても大切なのです。

その意味で、この「自分への新たな気づき（自分探し）」こそが、キャリア形成の最も重要なファクターであり第一歩であると言えるのです。

さらに、「ポジティブ思考（肯定的・前向きな考え方）ができるようになる」ことが、重要な目的になります。「ポジティブであること」は、将来どのような進路を歩むかにかかわらず社会に出た瞬間から必要条件として求められ、さらには人生の道程をも左右する要件です。短所と決め付けていること、できないと思い込んでいること、あきらめていること、苦手意識、目的をもてない……。等といったネガティブな部分をポジティブに変えることこそが、大学生活やそれ以降の社会人生活全般を充実させ自己成長していく鍵になるのです。「キャリア形成Ⅰ」は、大学生活のスタート時点で取り組んでほしい二つの重要事項に対する“考え方と取り組み方”を学びますので、できるだけ多くの学生の履修を望みます。

（２）キャリア形成Ⅱ

1年次後期に開講する「キャリア形成Ⅱ」の学修目的は、“自己実現力の形成”です。

大学生活を半年以上過ごしたうえで「自分」をより深く見つめ、「自分の能力を引き出す考え方を習得し、“成りたい自分に成る（自己実現）力”を高める」ことに取り組みます。

「人間としての根幹的な力、対人コミュニケーション力、プレゼンテーション力、自己実現に至るプロセス構築力」について、具体的に、かつ実践的に学びます。

「キャリア形成Ⅱ」は、「キャリア形成Ⅰ」を通じて見つけた自分の良さを、将来の進路に結びつける力とするためのブリッジになる内容であり、同時に、大学生活の集大成である就職活動時に求められる「人間力」を向上させるものでもありますので、できるだけ「キャリア形成Ⅰ」から継続した履修を望みます。

（３）キャリア形成Ⅲ

2年次前期に開講する「キャリア形成Ⅲ」の学修目的は、“職業観の形成”です。

自分の興味関心や職業観を「具体的な仕事に関係付けしていく」ことに取り組みます。

どのような仕事があるのか？ 業種業界とはどういうものなのか？ 企業に入った後はどのようにキャリアを積んでいくものなのか？ また、大学で学ぶことと仕事とはどのように関連するのか、社会で活かされるのか？ 業界研究はどのようなにしたらいいのか？ そのようなことを幅広く考察しながら、自分の関心に沿った仕事について詳しく学んでいきます。

「入社後3年間で、3割もの若者が辞めていく」という現象が社会問題化していますが、この主な原因は「ミスマッチ」であると言われています。ミスマッチとは「イメージしていた仕事、会社と現実とのギャップ」、つまり「こんなはずじゃなかった……」ということです。せっかく仕事に就いたにもかかわらず、2～3年（キャリアとなるには短かすぎる期間）で辞めてしまうことは、本人にとっても企業にとっても不幸なことと言わざるを得ません。

このミスマッチ現象を払拭するには、下記の事項が不可欠です。

- ・憧れや知名度などのイメージだけに固執するのではなく、「幅広い選択肢と選拓眼」を持つこと
- ・できるだけ「やりたい仕事を具体的にすること
- ・「自分はなぜこの仕事をやりたいのか、をしっかりと意味づける」こと
- ・やりたい仕事（及び業界）のことを、できるだけ「リアリティをもって理解すること
- ・「比較検討、取捨選択できる手法を身につける」こと

このような必要事項を習得することが、「キャリア形成Ⅲ」の目的です。キャリア形成Ⅰ・Ⅱの履修有無にかかわらず、できるだけ多くの学生の履修を望みます（ただし、1年次生は履修することができません）。

(4) キャリア形成Ⅳ

2年次後期に開講する「キャリア形成Ⅳ」の学修目的は、“問題解決力の形成・向上”です。
特にこのプログラムでは、下記の2つの能力について習得・向上を目指します。

- ・問題解決力
- ・論理的思考力、構想力

昨今のような変化の激しい社会状況においては、様々な問題事象が起こり得ます。企業活動においても、問題に直面する場面は多く、その際には全力で問題に向き合い解決・克服していかなければなりません。そのため、とりわけ問題解決力は重要視されており、新入社員の資質条件としても重要視されています。

また、論理的思考力も、職務遂行・問題解決・構想策定・成果創出の基礎資質として、業種・職種にかかわらず重要視されています。

「キャリア形成Ⅳ」では、この2つの重要な能力要件の向上を図るために、必要な事柄を、ディベートや企画立案等の実践的なトレーニング・スタイルを用いて学び、向上を図ります。来るべき就職活動にも大いに役立つ内容ですので、できるだけ「キャリア形成Ⅲ」から継続した履修を望みます（ただし、1年次生は履修することができません）。

(5) 国内インターンシップ

国内企業でのインターンシップに参加することを目的として開講する事前研修プログラムです。「国内インターンシップ」の学修目的は“企業体験で必要となる実践力・発揮能力の向上”です。

近年、インターンシップは、通常の授業では体験できない「企業活動や職場の実態」「仕事の現実」などをリアルに体験できる非常に有意義な機会として、学生・企業双方から注目されているものです。

ビジネスキャリアが豊富な講師による、マナー、コミュニケーションスキル、プレゼンテーションスキル、指示の受け方、電話対応・伝言・報告の仕方、態度行動のあり方、社会エチケット等々をトレーニングし、自分自身の実習目的を明確にしていきます。

なお、この授業は、国内インターンシップ（夏季休業中に行う）参加前の授業と、参加後の授業に分かれて構成されています。プレゼンテーション力や問題解決力を向上させたい、または、十分な時間をかけて事前準備にとりくみたい国内インターンシップ参加予定者は、この準備演習を大いに利用してください（ただし、1年次生は履修することができません）。

(6) 海外インターンシップ

海外企業でのインターンシップに参加することを目的として開講する事前研修プログラムです。「海外インターンシップ」の学修目的は“海外生活や業務体験で必要となる、また日本国内とは異なる「視点・考え方・態度行動・人間関係の持ち方」などを理解し、実際の場で役立てられるようにする”ことです。

海外ビジネスキャリアが豊富な講師による、海外企業オフィスでの実地的な英語の使い方、日本と海外でのワークスタイルや慣習の違い、マナー・コミュニケーションスタイルの習得、受付・店舗等での接客接遇の仕方、電話対応・伝言・報告の仕方等を、実際のオフィスシーンを想定しながらトレーニングし身に付けていきます。また英文履歴書の書き方も指導します。これらを通じて海外生活への不安を軽減し、対応力やプレゼンテーション力を養います。

なお、この授業は、海外インターンシップ（夏季休業中に行う）参加前の授業と、参加後の授業に分かれて構成されています。海外インターンシップ参加予定者は、この授業を必ず履修してください（ただし、1年次生は履修することができません）。